

つくしだより



平成31年4月号

デンマークの精神保健医療福祉

都連会長 眞壁 博美

2月21日、「ノーマライゼーションセミナーin府中」に参加した報告をします。

デンマークは人口580万人です。精神的不安を抱える人が約40万人おり、うつ病(軽度を含め)は約30万人、統合失調症の人は約2万9千人います。

◆国民全員に家庭医とケースワーカーがつく

デンマークの医療費は一切無料です。国民全員に家庭医がついています。住民登録をしないと必ず家庭医を選んで登録します。1人の家庭医には平均150人の住民が登録されており、年間で約10%の人が家庭医の診察を受けています。家庭医の問診だけで治る病気が85%を占めています。残りの15%が専門医あるいは病院で治療を受けます。

家庭医で問診を受ける人の約25%は精神的に何らかの不安を抱えている人たちです。家庭医は幅広く精神疾患を持った患者にも対応します。例えば軽度の不安症、うつ病、パニック、認知症、アルコール依存

症、そして治療が終わり病状の安定した患者のフォローアップ、退院後の追跡調査および管理(アフターケア)をしています。家庭医からの紹介で精神疾患患者は臨床心理士の治療を受けることもできます。

ケースワーカーも国民全員におり、1人のワーカーに住民約1500人が登録されており、ケースワーカーを受けると住民は年間約10%程度です。

◆精神の患者を普通の人として扱う

デンマークの医療で共通しているのは、入院でも通院でも、患者さんを中心にした医療が行われていることです。患者さんを理解するために患者さんとの対話を重視し、家族との話も大切にされます。家族というのは血縁関係者だけでなく、恋人や職場の同僚なども入ります。

精神医療を受ける患者に対する医療者の対応は、「精神病患者が来た」ではなく、「普通の人々が来た。普通の人々が精神的な問題を持ったと考えられる」そうです。

デンマークの精神医療の流れは、「より少ない投薬、なるべく入院を避け、「地域精神医療班」(※)による在宅支援」が主流になっています。

※地域精神医療班・・・精神科医・

精神看護師、ケースワーカーで編成され、青年(成人)を対象とする班と、特に認知症高齢者を対象とする班とがあります。

◆「平等」の考え方の違い

私の心に深く残った話は、「デンマーク人は、皆で税金を出し合い、社会の中で必要な人に分けていくことが平等だと理解しています。わかりやすく言えば、一枚のピザがあつて、3人で平等に分けようとしたとき、日本人の平等は、1/3ずつ分けようとなります。でも、デンマーク人の平等は、必要な人が必要な分だけ食べられるようにすることで、1/2、1/3、1/6に分けることが平等と考えます」ということでした。

◆豊かな社会とは・・・

デンマークは、女性の社会進出が世界一高く、子育てしながら働ける環境ができています。所得税40%、60%、消費税率は25%と高いのですが、国が何に税金を使っているのか透明性が非常に高いので、国民は安心して税金を払えるのだそうです。国民は大金持ちになることはできないけれど、貧困者もないという国のあり方は、豊かな社会ではないかと思いました。

第52回障都連都民集會に参加して

都連会長 眞壁 博美

2月11日(月・祝)、戸山サンライズで障都連(障害者と家族の生活と権利を守る都民連絡会)都民集會が開催されました。午前中の全体會に約150名が参加しました。午後は5つの分科會があり、私は第2分科會で「マール障運動について」報告しました。紙面の關係で記念講演のみ報告します。

テーマ・日本國憲法は、平和、くらしの礎
講師・宇都宮健児氏(元日弁連会長)

宇都宮氏は、①國會での改憲の發議を許すか否かが大きな政治的争点、②私たちのくらしは貧困と格差が拡大している、③我が國における人權狀況と基本的人權尊重原理の重要性、④民主主義の足腰を鍛えることの重要性、⑤韓國の市民運動に学ぶ、という内容で話されました。

私が特に引き込まれたのは、お隣の韓國の話でした。パク・クネ政權を退陣させ、ムン・ジエイン政權を誕生させた「ろうそく市民革命」は、20回も毎週土曜日に集會を開き、毎回100万人以上もソウルに人が集まったにもかかわらず、窓ガラス一枚割れず、けが人も出なかったそうです。その整然とした集會に大きな力を發揮したのが、ソウル市長のパク・ウォンスンでした。集會に集まった人たちに向けて警察は放水車を準備しましたが、

放水車に水を供給しませんでした。トイレを確保し集會参加者に開放しました。彼は、韓國の弁護士で、市民運動家です。2011年10月に初當選し、現在3期目です。彼は、①非正規職の正規職化、②ソウル市立大学の授業料の半額化、③無償給食の実現を公約し着実に実行しました。また、出前型福祉ともいうべき「チャットン」制度を実施。生活保護の申請待ちでなく、福祉担当者を増やし、困窮者のいる地域を廻り福祉につなげるようにしました。ソウル市の総予算約20兆ウォン(約2兆円)のうち50億ウォン(約50億円)について市民が予算案を提案し、市民の代表が予算の使い方を決定する市民参加予算制度が導入されています。



みんなねっとフォーラム2018に参加して

都連理事 鬼頭 博子

3月1日(金)、帝京平成大学沖永記念ホールにて開催。参加者350名

午前の部は伊勢田堯氏(元東京都多摩総合精神保健福祉センター所長)による講演「ベルギーの精神科医療改革から何を学ぶか」と得津馨氏(厚生労働省精神・障害保健課長)の行政報告「精神障害者地域包括ケアシステムとアウトリーチ支援事業の取り組み」、入院医療中心から地域生活中心へ、精神障害者

にも対応した地域包括ケアシステムの構築についての説明がありました。

午後は「精神障害者が安心して暮らせる地域づくりを共に」当事者・家族ができること」をテーマに、だるまさんクリニックの西村秋生氏の基調報告が行われ、その後は3名のシンポジスト達のお話です。

リカバリーセンター久留米施設長の磯田重行精神科医は「誰もが自分の力を信じ元気で自分らしく生きる」をテーマにご自身の病氣体験を軸に現在の活動を報告されました。さいたまもくせい家族会の佐藤美樹子氏は「職種を超えた連携から生まれる新しい取り組み」「家族も参加する地域事例検討会」の活動を、実にいきいきと頼もしく語られました。また、岡崎クリニックの岡崎院長は、患者の置かれている現状と病院でできることとの限界。病院自ら改革の先に何があるのか?地域で可能な限りサポートできないか?そして、リカバリーという概念、ACTとの出会い、「24時間365日切れ目ない支援」にたどり着かれ、現在実際に訪問・往診を中心とした診療(アウトリーチ)をなさっています。今日お話しされた先生方はいずれも数名のスタッフと共に小さなクリニックを運営しています。

いきなり大きな改革は出来なくても、地域の中で小さなACTが広がっていけば、いずれ私達の希望に繋がるように思えました。

平成30年度多摩地域ブロック会議報告

元都連理事 中住 孝典

平成31年3月2日(土)第2回の多摩地域ブロック会議が府中ふれあい会館で行われました。21単会28名の参加でした。都連から①都精民協の講演会について②都連主催の講演会の報告③心身障害者医療費助成(マル障)の実施④東京都相談事業について⑤単会訪問について等の報告がありました。引き続き各単会からの報告として、国分寺あゆみ会から2018年8月に国分寺で起きた「家族に対する暴力を伴った精神疾患の息子を父親が絞殺した事件」の裁判傍聴報告がなされました。何ともやりきれない悲しい事件であり、各単会からも行政や警察、医療機関、支援機関がどのように介入していたのか、家族会とのつながりがあったのかなど多くの意見や感想が出され孤立させず抱え込ませない状況作り、地域の拠り所としての家族会機能の充実や定着の大切さを改めて痛感させられました。

から1名会員登録を増やす●賛助会員の増加(具体的数値も設定)により当面の財政の改善を図る案が出されました。単会の財政も厳しい実情、逆に会員登録を減らしたいと思っていた、様々な機会を逃さず寄付金活動を行う、クラウドファンディングを活用する等、様々な論議が交わされましたが、大筋では全体の合意が得られました。単会の継続発展についても会長の高齢化、役職の交代ができない問題などの指摘もありましたが、市の広報等を積極的に活用し家族会の存在を周知、拡大に努める事、リーダーが上手引き継いだ事例や、(日野いずみ会のように)会員が増えていくところ等を参考にさせていただき会の継続発展につながる努力を行う必要性を相互確認しました。また発達障害の会との相互乗り入れや部会的な発想、家族会と兄弟姉妹の会との連携等の話題もあり、地域家族会の拡大の具体化を図るうえで大変貴重な意見が活発に出された交流会となりました。

家族会訪問

足立区「ひだまりの会」 ありがとう

都連理事 安藤 万寿代

3月17日(日)、午後1時30分からの「ひだまりの会お別れ会」に副会長の轡田さんと一緒に出席しました。会場は足立区竹ノ塚ふれんどりで開催されました。本日は会員・当事者・元保健師・オリーブの会の方・

萌の会(ひきこもり親の会)の方々も含めて25名余りの参加があり、会長の三浦勝之さんのご挨拶で始まりしました。

「ひだまりの会」は平成5年7月に設立され、26年間頑張ってきましたが、役員の高齢化と後継者がいないとのことでやむなきに閉会しますと事務局の服部百合子さんからお話がありました。服部さんは現在御年94歳ですが、発足時当初から多くの精神を病んでいる人達のために、一生をかけて家族会活動を続けて行こうと決意され、今日に至りましてお姿に感動しました。会場の皆様から労いと、感謝の気持ちを込めて沢山の拍手をお送りしました。

三浦さんはかつて東京つくし会の理事でお世話になり、服部さんは東京つくし会の元副会長を務められ、今年度は相談役としてお世話になっていきます。心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

会場の皆様から一言のお言葉があり、お世話話になったお話から、現在の状況、これからの様子をお話ししていただきました。

特に印象的でしたのは、当事者の方が涙ながらに思い出を語られ、とても感動しました。「ひだまりの会」で築かれた様々な事柄は、心の癒しの場として皆様の記憶に残ることでしょう。

今後については、希望者は足立区家族会「あしなみ会」に入会されるそうです。

皆様の幸せを心からお祈りいたします。

東京都障害者団体連絡協議会

都連副会長 轡田 英夫

標記の会合が、平成31年2月13日(水)午後2時から4時まで、都庁第二庁舎の会議室で行われました。都福祉保健局の主催で、都からは障害者施策推進部長と障害者医療担当部長と関係各課の課長及び担当者計約20名の出席と、16名の各障がい者団体の代表者の出席によって開催されました。

今回の主な議題は平成31年度の福祉保健局の予算案の説明でした。ポイントは以下の通りです。

- ①障がい者が地域で安心して暮らせる基盤整備をし、地域移行を進める。
 - ②前述の障がい者福祉サービスを達成するための人材の養成・確保。
 - ③障がい者が生き生きと働ける社会の実現。
 - ④障がいの特性に応じたサービスの提供。
 - ⑤共生社会の実現を目指す。
- 精神障がい者に対する新規事業としては、「一」難治性の精神障がい者が専門的な治療を受けて地域で生活できるための整備事業。「二」措置入院者に対する退院後の支援体制整備事業。

「三」災害時の精神科医療体制整備事業。

以上の事業が平成31年度の新規事業という説明がありました。



講演会のお知らせ

☆5/11(土) 今日からの睡眠に役に立つ休眠法

講師：杏林大学医学部精神神経科学教室・精神科医 高江洲 義和氏

会場：新宿区立障害者福祉センター

主催：新宿フレンズ ☎03-3987-9788

☆5/15(水) 爽やかな関係を作りましょう！

講師：SSTリーダー 高森 信子氏

会場：高円寺障害者交流館1階 申込不要

主催：杉並家族会 ☎090-4535-9663

※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いします。

☆ 賛助会費 ☆

おかげさまで平成30年度の賛助会費は、

個人	(一口2千円) …	42000円
団体	(一口5千円) …	15000円
病院	(一口1万円) …	40000円
診療所	(一口5千円) …	130000円
計		227,000円となりました。

心の病に悩む人たちの医療と福祉の改善を求める活動に取り組んでいる本会は、都内の家族会それぞれの会費収入の中から納められる年会費によって賄われており、この賛助会の収入は貴重な財源になっております。

つきましては、ぜひ本会の賛助会員になって頂きたく、何口でも結構でございますのでよろしくお申し込み申し上げます。

編集後記

昨年6月の評議員会の時に母親の介護のため北海道の地元に戻るという事で都連の理事を辞させて頂いていただきました。その後北海道に帰り母親と一緒に暮らしていましたが体調が優れず自宅で倒れ入院。経過は良かったので自宅に引き取る予定でしたが、周囲が私を心配してくれ地元の老人保健施設に母親は入所することとなりました。母親は自宅に執着していましたが、さすがに我儘は言えないと思ったのか施設の入所を了解しました。その後自宅にいるよりは安定した生活が送れていたため安心していたところ、今年の2月始めに高熱が出たのをきっかけに状態が急変しあつ！という間に亡くなりました。

親の存在、親子っていったい何なのだろう、答えの見えない問い、いろいろ複雑な思いが巡ります。でも数ヶ月でしたが一緒に過ごすことができたことは何よりかと思っています。また私は地元の人たちに支え助けられました。友達も来てくれました。人の心が身に沁みます。そのようなわけでまた東京青梅市に戻り私は私自身の生活を再スタートします。そろそろ桜の時期です。東京つくし会の皆さんこれから宜しくお願

つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。